

今号は、第15回
「夢みるこどもキャンペーン」を
特集するよ。



※「ECOko」とは環境問題を考えるこども達、Ecology+Kodomoの造語です。

こどもたちの夢よとどけ
Dream museum
夢美術館



濱屋 江里
大阪府・池田中学校2年
キャンペーン参加
第14・15回生

松林に響く 人と自然の ハーモニー



イラスト・濱屋 江里
※夢美術館はこどもたちの感動や夢を
展示する仮想美術館です。

環境破壊を防ぐのは 人間の思いやり

この絵は、みんなと 晩でも仲良くなり
虹ノ松原で行った全て もっともっと楽しくな
る絵にしました。
振り返ってみると、 また、松葉かきなど
スイカ割り、松葉かき、 でお話を伺い、今ま
合唱、友達との交流私 で知らなかったことを
にどって今年の夏のイ 学べました。そして、私
メントでの何気ない一 たちには一人一人の夢
瞬が私の大切な思い出 があり、その夢を持つ
です。
考えてみれば、私は 表として集い、忘れて
2回目のイベント参加 はいけない色々な人の
で面識がある人もいた 協力を得て、このよ
のですが、ほとんどの なイベントを開くこと
皆さんとは初対面と ができました。
でも緊張していました。 改めて、私たちが忘れ
しかし、私はいろいろ 失ってしまった自然へ
なイベントで交流した の思いやりが環境破壊
ことにより、たった一 へとつながり、今のよ
うな状態になってしま
ったと思います。
こども宣言にもあり
ましたが、私はみんな
で合唱して心が一
つになったり、声が一
つになった瞬間、昔の
人は自然との調和が上
手く、その自然とハ
ーモニーがずっとずつ
と続いていたら今の
ような状態にはなっ
ていないのだと思いま
す。やはり声には出ない、
人間が好き勝手に返
もすぐには返事が返
てこない、でも、や
がて何十年かかって返
てくる遅い返事をする
自然が今返事をし、や
つと私たちに問いかけ
ているのです。もう限
界だと。

私はいつも、いつか
ら自然との調和を失っ
てしまったのだろうと
思います。でも、それ
は人間が人間を豊かに
する便利さを求めるよ
うになったからではな
いでしょうか。
今はまだ自然からの
返事が返ってきている
途中で、それに気付かず、
その返事が途切れてし
まい、もう何十年待っ
ても返ってこない状態
になってしまっています。
それは遅いのです。
つまり、私たちが私
たちの便利さを求めれ
ば求めるほど、自分た
ちを傷付けているので
す。だから、誰かがし
てくれる、自分一人く
らいいは、と思わず、思
い切つて一歩踏み出し
てほしいのです。今回
のイベントでたくさん
学ぶことができたら
いいです。

第15回「夢みるこどもキャンペーン」

今年のテーマは 地球環境保護

今年のテーマは「地球環境保護」。作文・絵の応募者4030人の中から選ばれた16人の小、中学生が参加。初日の8月1日はボランティア団体の人たちと一緒に福岡市・天神地区の道路や公園のゴミ、空き缶拾いをしました。2日は佐賀県唐津市の国の特別名勝・虹ノ松原国有林で松葉かき作業の後、近くの野外ステージで基金のこどもたちや地元の小、中、高校生による歌やオカリナ、太鼓、ブラスバンドの演奏、それにアグネス・チャン基金理事の歌などがありました。

イラスト・小崎 朋佳



小崎 朋佳
鹿児島県・平尾小学校6年
第15回生
2面にもみんなの
イラストと作文が
特集されているよ

歯医者さんありがとう、私たちのキャンペーンは歯科医院
などから提供していただいた金属冠で支えられています。

- 2面 | 笑顔満開のイベント(中村) / 天神地区のゴミ清掃活動(高野)
ペットボトルで作られた天の川(イルミネーション(橋渡))
- 3面 | 環境インタビュー④「森の守り人」(堀江) / ECO4コマ・マンガ(須井)
陸世のエコ生活④ 夏はクールネットが決まり！(中原)
- 4面 | DreamVoice「第15回夢みるこどもキャンペーン」に参加して
あとかぎ(堀江) / 原稿募集 / おこわり

イラストと作文で振り返る今年のキャンペーン

イベントは楽しく、そして勉強になることが多かったそうだよ!



ペットボトルリサイクル

ペットボトル5500本の 天の川イルミネーション



樋渡 工
佐賀県 鍋島中学校2年
第15回生

絵/樋渡 工



イベント前日の夜、イベント参加者たちは佐賀県唐津市・西の浜海岸の砂の像とペットボトル5500本で作られたブルーの天の川などのイルミネーションを見学しました。この事業は唐津青年会議所の主催で、レーザーラジアルヨット世界選手権を盛り上げると共に唐津の砂浜を是非歩いて欲しいとの想いで7月25日から8月2日まで開催されました。海岸近くにある唐津城もライトアップされ、見学した参加者たちは美しいイルミネーションと砂の像に歓声を上げていました。



ゴミ清掃活動

天神地区での ゴミ清掃活動で感じた事



高野 愛花
福岡県 宇美中学校1年
第14・15生

イラスト文/高野 愛花



ゴミを目に見えないように 隠してあったり、拾うのが大変でした

歩いてみると、ゴミ箱があるのにポイすてしてあったり、ビニールに入れてすててあったり、目に見えないようにかくしてあったりして、拾うのが大変でした。タバコのゴミ・カン・ビン・チラシなどが多かったです。



笑顔の貯金いっぱい、たまったよ

笑顔満開



中村 陽
福岡県 曲淵小学校4年
第15回生

この夏のわたしの一番の思い出。それはたくさんのお出でです。冬休みに書いた一枚の作文のごほうびで参加したイベントは、一日二日の唐津市・虹ノ松原への楽しい旅行でした。

一日目、どきどきしながら集まった福岡市・天神ビルでみんなおそろいのTシャツに着替えて、まずは天神のゴミ拾い。いつもはあまり気付かなかったけど、たくさんタバコの吸いがらや空き缶が落ちていました。でも、わたしたちが歩いたあとを振り返ると、ゴミがなくなっていて、なんだか明るく見えました。

それからバスに乗って唐津に行くけど、ちよびりくもってきましたが、ホテルに大きなスイカがわたしたちを待っていました。海岸にスイカをならべて、さっそくスイカ割り。わたしは初めてスイカに棒が「パーン」とあたって、少しだけスイカにヒビが入りました。「やったー」。大きなスイカがいつもよりおいしく感じました。

夜は小さい三人組が同じ部屋になりました。お母さんと自分たちできましました。三人でいっばいいっばいおしゃべりして、たくさん笑ってぐっすりねました。

二日目、朝一番にホテルの周りがある虹ノ松原で、松葉拾いをしました。松葉を集めて、白い砂浜にもどしてあげるのだそうです。わたしたちは、たった一日のお手伝いだったけど、毎週たくさんのお人が、ボランティアで松葉拾いをしていることがわかりました。またわたしも、お父さんやお母さんと拾いに来たいと思いました。

そしていよいよ、環境音楽祭の始まりです。わたしはみんなの前で自分の夢を書いた作文を読みました。

唐津の小学生のたいこやオカリナ演奏も、唐津くんちのおはやしも、高校生のお兄さんお姉さんのブラスバンド演奏も、とって楽しく心がうきうきしてきました。伊藤実喜先生の作品はびっくりの連続でした。そして、わたしたちがこの地球のためにやりたいこと「これも宣言」をみんなで声をそろえて心をこめて読みました。最後に、アグネス・チャンさんと一緒に歌を歌いました。「ドント ストップマイドリーム」。わたしはこの歌を歌うと、いつも自分の夢がきつとかなうような気がしてきまします。

この二日間、わたしはたくさんのお人と出会い、たくさんのお笑顔に出会いました。笑顔の貯金、いっぱいたまりましたよ。みんなまた、会いましょう。



環境 インタビュー④ 「森の守り人」

森を守るのは 地元の協力が不可欠



堀江 健一郎
福岡県・城南中学校3年
第14・15回生

『佐賀森林管理署』和田流域管理調整官に聞く
僕の環境インタビューも4回目となった。創刊号で紹介した『森は地球の宝物』から始まり、2回目はゴミ拾いの活動から考え、第3回目は熊の絶滅が危惧される事をきっかけに「自然を守らなければ、私たちは生きられない」と投げかけた。やはり、地球環境問題を考えた時、自然、森林というのは切っても切れないものだと思う。そこで今回はNPO法人の活動団体や民間のボランティア団体を取材させて頂いたが、今回は、夢みることも基金の森づくりでもお世話(協力)頂いている佐賀森林管理署の方にインタビューをお願いした。



堀江：こんにちは。初めまして。お忙しい中、時間を取って頂いているので早速本題に入らせて頂きます。まずは、森林管理署と聞いても僕たちにはどういった組織で何をしている所なのか分らない、と言っ人も多いと思うので教えて下さい。

和田：森林管理署というのは、国の林野庁の先機関なのです。日本は国土の約7割が森林です。そのうち約3割が国有林です。その国有林を管理するために林野庁を中心に日本に7つの管理局を置き、そのうちここ佐賀森林管理署は、九州森林管理局に所属します。堀江：職員は何人くらいいらっしゃいますか？

和田：この佐賀森林管理署には25名です。堀江：そもそも森林管理署はどんな事を行っているのですか？

和田：各地方の森林管理署によって具体的に何が行われている活動内容は違いますが、「森林を育て、森林の果たすべき役割を守る」という基本方針は変わりありません。その中でこの佐賀森林管理署においては、唐津市にある『虹の松原』の保全・管理が活動の中心に挙げられます。虹の松原は日本の三大松原の一つで国の特別名勝に指定されています。にもかからず、現在虹の松原は、松林に異常が起きています。松くい虫の被害によって松が枯れているのです。平成3年には1800本の松が枯れ、その後被害が続きました。松林の松が枯れると潮害

津市にある『虹の松原』の保全・管理が活動の中心に挙げられます。虹の松原は日本の三大松原の一つで国の特別名勝に指定されています。にもかからず、現在虹の松原は、松林に異常が起きています。松くい虫の被害によって松が枯れているのです。平成3年には1800本の松が枯れ、その後被害が続きました。松林の松が枯れると潮害

防風保安林としての役割が果たせず、土砂崩れ等の二次災害も起きます。だからこそ、虹の松原の保全・管理が必要なのです。これだけ自然環境が壊される中、私達(森林管理署の職員)だけではなかなか出来ません。そこで地元の人達との協力が不可欠で、みんなで虹の松原の再生保全に取り組んでいかねばならないと思っております。

堀江：実は、このインタビューに向けて僕なりに調べてさせて頂いたのですが、昨年、佐賀県と唐津市、そして九州森林管理局の間で『虹の松原の再生保全に関する覚書』というものを結ばれていますよね。これはどういったものなのでしょうか？

和田：そうですね。よく調べられましたね。昨年9月2日に協定を結びました。つまり、国・県・市三者の行政が虹の松原の再生保全を連携してやっていきますよ、というものです。そのために3つの大きな柱があります。

①虹の松原の白砂、青松を取り戻すための計画、実行計画を立て、連携しての活動
②松くい虫の駆除での薬剤の地上散布、空中散布の場合、地元の方への理解と協力の要請
③松林を守るための伐採などの協力です。堀江：先程から松くい虫の被害で松が枯れていると言われていますが、松くい虫とはどういったものですか？

和田：松くい虫とは約1000年程前に長崎でアメリカから輸入した材木に付着していた虫が拡がりました。マツノザイセンチュウという1ミリの小さな虫ですがこれがマツノマダラカミキリがマツをかじった際にマツノザイセンチュウが松の木の中に入ったまま、これが松枯れる原因となってしまうの

です。この被害がここ虹の松原で起こり、平成3年には1800本の松が枯れてしまいました。この駆除予防には、葉の空中散布や樹幹注水、被害木を伐採し焼却するしかありません。それ以来、松くい虫の駆除予防の対策を行ってまいりました。おかげで近年は被害も縮小し、昨年(平成20年)は111本でした。堀江：すごいですね。和田さん達の活動の努力と成果です。こんなふうな結果として現れるのが嬉しいのですが、このお仕事は自然相手という事もあり大変だと思います。それだけに和田さんが「やっていて良かった」と感じるのはどんな時ですか？

和田：私は九州森林管理局の中の人間ですから、九州各地を回ります。慣れない土地へ行き、不安な事もありますが、その地域の方々や接しながらの仕事ですから、その出逢いふれあいは楽しいものです。また、今は海岸線の木々と関わっていますが、これがまた異なるところで、例えば山々が連なる場所でもまた違った種類の木と出逢えるのもこの仕事の魅力の一つです。堀江：では最後になります。今、僕達は地球環境問題を考え、自分たちに出れる事は何かあるか、という事を探っています。和田さんはどうな事だと思いますか？

和田：林野庁でも森林整備を行っています。けれども一番大切な事は、やはり我々の生活の中での工夫だと思えます。紙の無駄遣い、水の節約、使い捨てを止めるなど、ちょっとした気遣いで地球温暖化は防げると思

います。堀江：長い時間ありがとうございました。まだまだ僕の勉強不足でしたので、国の政策としてどんな事業が行われているのか、また県や市などの地方行政が環境問題に対してどのような立場を取っているのかなど、これから調べてみたい課題も見つかったように思います。作業服姿の和田さんは、気さくで僕ととりとめもない質問にも答えてくれました。そんな人柄の和田さんだからこそ、九州のどの森林も、その地元の人も自然に和田さんを受け入れ活動の輪が広がるのかな、と感じました。そして何よりも、僕自身が、将来、和田さんのような「森の守り人」になりたい、という夢を抱いた。

このところ、夏になると「クールなんか」がはやりのようだ。我が家では父が「涼感シャツ」や「クール肌着」などを使っているように、だが、ぼく自身では「クールネック」がマイブームだ。水が蒸発する時に熱を奪う「気化熱」などを利用したもので、やや大きめのリボン(はちまき)のようなものに新素材が縫い込んであり、水に濡らして首や頭に巻くというのだ。こんなもので本当に涼しいのかな、とだまされた

つもりで使ってみた。最初はただの濡らしたタオルみただったのが、しばらく時間がたつとあら不思議。普通は体温でだんだんぬるくなっていくところが、少しずつひんやりとしてきた。これが「気化熱」というものか。理科の実験をしているような気分になっていた。家にはためのジャンルタイプがあるが、ジェムタイプは冷感が大きい代わりに持続時間が短い。気化熱タイプは

冷えは弱いが長持ちするようだ。どちらも紺色で男のぼくがしてもおかしな感じはない。炎天下では気化熱がよく働くのでさらに威力を発揮、自転車で出かける時にもってこいだ。何だか昔の仮面ライダーみたいだ。クールネックと扇風機だけでこの夏は快適に過ごせた。また今年も部屋のエアコンは使わなかったが、そもそも夏らしくなかった。涼しい夏に、環境のことを考えさせられた。

隆世の④
エウ生活
炎天下では気化熱がよく働く
夏はクールネック
で決まり！

中原隆世
埼玉県黒浜中学校2年
第14回生
このところ、夏になると「クールなんか」がはやりのようだ。我が家では父が「涼感シャツ」や「クール肌着」などを使っているように、だが、ぼく自身では「クールネック」がマイブームだ。水が蒸発する時に熱を奪う「気化熱」などを利用したもので、やや大きめのリボン(はちまき)のようなものに新素材が縫い込んであり、水に濡らして首や頭に巻くというのだ。こんなもので本当に涼しいのかな、とだまされた

真夏に自転車
で出かける時は
クールネック！
須井 悠介
大阪府松原中学校1年
第15回生

eco四マ
マンガで考える地球環境
地球温暖化のせいで
サハラ砂ばくが
大きくなっています

DREAM VOICE

わかばたちの「声」

第15回 夢みる子どもキャンペーンに参加して



イベントに参加してくれた子どもたちから、素敵なおメッセージが届いているよ!

高野 愛花

今回のイベントに参加したことで、たくさん友達ができ嬉しかったです。そして、昨年よりもたくさん森のことを知ることが出来ました。

福岡県
宇美中学校 1年

堀江 浩司

2年前のイベントで指揮した緊張感とまた違った気持ちで歌のハーモニーに乗せられました。僕の夢、みんなの願い、想いが、虹ノ松原の海、木々達に届いたでしょうか。そして、未来の地球に向けて改めて考え直すきっかけとなりました。

福岡県
城南中学校 1年

須井 悠介

夢みる子ども基金に僕の絵が選ばれ、今回のイベントに参加することが出来ました。たくさん友達もでき、地球を守るために身近なことから僕たちにも出来ることをたくさん知りました。この活動を通し、もっともっと人がつながりあえるよう、僕もお手伝いしていきたいです。ありがとうございます。

大阪府・松原中学校 1年

崎津 優誠

参加するまで少し不安でしたが、すぐに仲間ができて、とても楽しい充実した夏の思い出となりました。今回のイベントでは、清掃活動があり、僕も地元で環境レスキュー隊を作り、主に山、海の清掃を行っていましたが、グリーンパードの方と交流する事でとても良い刺激になり、これからの活動意欲になりました。また、アグネスさんとお会いした事で、環境だけでなく飢餓、貧困にも興味を広がり、この夏、非常団団体フィリピンキッズのメンバーに入りました。自分自身、また一つ成長できたような気がします。この夏のイベントに参加出来たことを感謝します。本当にありがとうございました。

兵庫県
芦屋学園中学校 2年

赤峰 彩梨

今回のイベントでは環境についていろいろ考えさせられました。でも、とっても明るくて楽しい2日間がありました。私はイベントを終えて、お土産よりも重いものを持って帰りました。それは私の本当の夢、やっと見つけ出すことができたようです。歯医者さん、基金の方々、そして友達みんな、本当にありがとうございます。イベントで体験した事、仲良くなった友達との思い出、私は絶対忘れません。

大分県
大分中学校 2年

濱屋 江里

私は2回目の参加でした。初対面の人も多く、緊張していますがイベントで交流したことでも仲良くなりました。松葉かき、森のコンサート、みんなで過ごした楽しい思い出は宝物です。イベントを企画して頂き、本当にありがとうございます。

大阪府
池田中学校 2年

ステイジに上り、朗読の練習をした。子どもたちの意見が聞ける。

堀江 健一郎

昨年の環境サミットから始めて、環境子ども新聞の発行。そして今年の松林の中の音楽祭。これまでの夢みる子ども基金の歴史から、また新しい出発点を迎えるイベントのように感じました。夢みる子ども基金の森づくりを進展させるとともに、環境子ども新聞の活動も活性化したいと思いました。

福岡県
城南中学校 3年

中村 陽

この夏のわたしの一番の思い出! それは、たくさん友達の笑顔です。天神のゴミ拾いを一緒に頑張ったお兄さんの笑顔、ホテルの部屋でいっぱいおしゃべりした仲良い友達や、松葉集めを教えてくれたおじいさんたちの笑顔。この地球のみんなが笑顔になれたらいいな。

福岡県
曲淵小学校 4年

林 花音

わたしは東京から夏のイベントにさんかしました。松林の中の環境音楽祭でみんな力を合わせることでできて楽しかったです。イベントでできた友達とおなじへやにとまったことは、大きな思い出です。

東京都
東洲江小学校 3年

小崎 朋佳

イベントに参加した時は不安だったけど、みんなと交流しながら楽しくなりました。友達もでき、みんなで協力して作業することができました。イベント当日は緊張して疲れましたが、地元の方やマジックショーの披露などでとても楽しい思い出が作れました。

鹿児島県
平尾小学校 6年

樋渡 工

僕はこのイベントに参加して、公園などで清掃活動をして環境に関する活動に取り組めたこと、違う県に住んでいる人と友達になれたことがとても良かったです。たくさんの人と交流できて楽しかったです。

佐賀県
鍋島中学校 2年

山口 桃加

イベントに参加して、ふだん体験できないことがたくさんできました。砂のアート、すいかわり、とても楽しかったです。松葉かきをして白砂が見えた時はとてもきもち良く、風によって海辺へかえてねと心の中でお祈いしました。子どもせんげんもきんちょうしたけど私たちのきもちがみんなに伝えられました。お友だちとおどまりしたのもはじめてでした。仲良くなったお友だちとお別れするのが本当に悲しかったです。夢のような2日間が忘れられない一生の思い出です。

福岡県
南片江小学校 2年

升田 菜穂

イベントに参加できて良かったです。最初はちょっと不安だったけど友達ができうれしかったです。すいかわりはなかなかかわれませんでした。夜のイルミネーションはきれいでした。松葉かきは大変だったけど、みんなで頑張りました。いろいろな体験ができて楽しかったです。ありがとうございます。

福岡県
与原小学校 5年

吉村 陸

僕がびっくりしたのは二つあります。一つは夜の浜辺の光です。アンパンマンやドラえもんやオバケの道や魚などがありました。あと、砂のお城がすごかったです。あと一つは、イベント当日に松葉かきで集めた松の枯れ葉がたばこの肥料になるのびっくりしました。松葉かきの時に、コケや松ぼっくりを取りのぞきながら集めるのがすごかったです。参加できてとても楽しかったです。

福岡県
水城西小学校 5年

井上 実紀

私はふだん自然や環境のことを考えて、ゴミを捨てないようにしたり、うら紙を使ったりしています。夢みる子ども基金のイベントでも街の清掃をしたり、松葉かきをしてまた少し自然への関わり方を学び、環境に優しくできたなと思いました。好きな絵を通して、友達でできたことも嬉しかったです。

福岡県
長住小学校 6年

山下 千佳

初めての参加でしたがとても楽しめました。やはり、特に心に残っているのは環境音楽祭です。オカリナ、太鼓の演奏、唐津くんちのはやし、プラスバンド演奏など、それぞれの音が今でも耳に残っています。友達もでき、いい思い出になりました。

福岡県
福岡教育大学附属
久留米小学校 6年

あしがき 私たちの新聞の力で環境を守りましょう

堀江 健一郎

福岡県・城南中学校3年 第14・15回生

今回の子ども新聞は、夏のイベントを中心に特集を組んでみました。3月の子ども会議でも、昨年に引き続き、地球環境問題を考える意見やそれに向けての企画が多く出されました。今年のイベントは佐賀県の唐津市にある『虹の松原』という地で、久しぶりに屋外での開催となりました。イベント当日の午前中は、「松葉掻き」という貴重な体験を松林の再生・保全に取り組む森林管理署の方、地域のボランティア団体、近郊の高校生の方達と一緒にさせてもらいました。松葉ぼうきでひと掻きすると、たくさん枯れ松葉やゴミの下から待っていました。とばかりに覗かせるまだ初々しい松の新芽。この新芽を守るため、松葉掻きは欠かせない作業だと教わりました。午後は、海風が松林を爽快に盛り上げる中、僕達「森は生きている」の歌声やオカリナの音が僕らの願い、夢を乗せて響き渡りました。

イベントが終わり夢みる子ども基金から参加した僕達16人は、それぞれ自然の優しさ偉大さを肌で感じながら、この自然、松林を大切にしていかなければならない、と決意を新たにしたいのではないかと思います。そして僕は、環境子ども新聞や基金の森づくりの活動をさらに活発にし、環境問題をより多くの人にもっと真剣に受け止めてもらえるよう、投げかけていくつもりです。だから、皆さんもたくさん情報や意見を送って下さい。僕達みんなで考え、活動していきます。

◎おこわり：この新聞は子どもたちの原文に基づいて作成しています。一部には筆者の事実誤認などがあるかもしれませんが、地球温暖化防止・環境保護に取り組む子どもたちの熱意と努力を読み取って頂きたいと思っています。

新聞作りに参加して下さい

皆さんの協力により、環境子ども新聞も第4号を発行するところになりました。新聞作りにも携わっている夢みる子ども基金OB・OG会にはさらに新聞づくりに参加する仲間を募っています。テーマは環境保護ですが、地球環境に日々の生活の中で、環境保護についての様々な取り組みなどです。個人やグループの活動など、どんなものでも結構です。記事、絵、イラスト、漫画はなるべくカラーでお願いします。投稿者の氏名、住所、連絡先を明記して顔写真を付けて下さい。環境子ども新聞は年4回発行の予定ですので、随時受け付けています。

● 投稿・問い合わせ先 ●

夢みる子ども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6 2F
☎092-751-0021 FAX 092-751-0249
e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp

「環境子ども基金」のホームページがリニューアルしたよ!
「環境子ども新聞・エココ」にはホームページからも投稿できるよ。
URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>

「環境子ども新聞」の
なまえが新しくなりました!

「ECOKO」とは環境問題を考える子ども達 Ecology + Kodomo の造語です。